

# 20XX 年度人工知能学会全国大会・L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X スタイルファイル

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X Style file for manuscripts of JSAI 20XX

第 XX 回全国大会プログラム委員会 <sup>\*1</sup>      第 2 筆者氏名 <sup>\*2</sup>  
The Program Committee of the XXth annual conference of JSAI      Second Author's Name

<sup>\*1</sup> 人工知能学会      <sup>\*2</sup> 所属和文 2  
The Japanese Society for Artificial Intelligence      Affiliation #2 in English

Here is abstract (max. 150 words) in English. This file is a template file for the XXth annual conference of JSAI for L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X. This is also a sample of the formatted manuscripts. And this document describes a formatting guideline for (Japanese) manuscripts of the XXth annual conference of JSAI.

## 1. はじめに

全国大会論文集は電子的にご提出頂くファイルをそのまま収録した CD-ROM です。この手引きをご参照の上、原稿をお作り頂きますようお願いいたします。この手引きは L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 用スタイルファイルの使い方を説明したもので、これ自体もサンプルとなっています。

## 2. 全般的事項

### 2.1 ファイル形式・サイズ

Adobe(R) PDF (Portable Document Format) 形式のファイルを提出してください。その他の形式での提出は受け付けませんので、ご注意ください。ファイルサイズはファイル受付システムの制限がありますので、3MB 以下にしてください。また、ファイル名の拡張子は .pdf にしてください。

### 2.2 ヘッダー部分

今大会から講演番号およびヘッダの会議名は、原稿提出後に運営側で挿入しますので、著者が作成する原稿には記入しないでください。

### 2.3 原稿枚数

下記指定フォーマットで A4 用紙 2 ページです。希望によりさらに 2 ページまで無料で追加できます。

## 3. L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 原稿のスタイル

論文のスタイルを統一するために、原稿はできるだけ以下のスタイルファイルを使ってください。基本的には 2000 年度までの全国大会論文集用に配布されていた原稿用紙と同じ形に仕上がるようになっていきます。スタイルファイル自体は昨年度用のものと同一です。

スタイルファイルは以下のように指定してください。

ASCII 版 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2.09 なら

```
\documentstyle[twocolumn,jsaiac]{jarticle}
```

NTT 版 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2.09 なら

```
\documentstyle[twocolumn,jsaiac]{j-article}
```

ASCII 版 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub> なら

連絡先: 氏名, 所属, 住所, 電話番号, Fax 番号, 電子メールアドレスなど

```
\documentclass[twocolumn]{jarticle}  
\usepackage{jsaiac}
```

欧文使用の L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2.09 なら

```
\documentstyle[twocolumn,jsaiac]{article}
```

欧文使用の L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub> なら

```
\documentclass[twocolumn]{article}  
\usepackage{jsaiac}
```

“jsaiac.sty” は以上のように、標準で配布されるパッケージである jarticle.sty, j-article.sty, jarticle.cls (欧文論文の場合は article.sty, article.cls) を主のスタイルファイルとして、それにオプションという形で使うように設定されています。“jsaiac.sty” はタイトル部分、文字組の調整、一部脚注の調整以外は行っていないが、共通版にする関係から、オプションの twocolumn の指定が必須です。以上のことから、“jsaiac.sty” を使う場合は、上記の指定方法を必ず守るようお願いいたします。

“jsaiac.sty” は以上の 3 つの L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X のバージョンに対応しています。NTT 版の L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub> は動作確認を行っていません。

### 3.1 “jsaiac.sty” を使うことで指定が不要なもの

“jsaiac.sty” を使えば、次の指定は必要ありません。

- ページ番号の書式
- マージン等の位置
- 用紙 (A4) 用紙
- 本文 (2 段組)

### 3.2 “jsaiac.sty” を使うことで指定が必要なもの

○ タイトル領域: “jsaiac.sty” の書き方のきまりは次のようになります。

- タイトル:

```
\title{  
  \jtitle{和文タイトル}  
  \etitle{欧文タイトル}  
}
```

なお、欧文論文の場合は、単に

```
\title{欧文タイトル}
```

としてください。

- 筆者名（同一所属の場合）:

```
\author{%
  \jname{筆者氏名}
  \ename{Given-name Surname}
\and
  \jname{筆者氏名}
  \ename{Given-name Surname}
\and
  Given-name Surname
}
```

なお、欧文論文の場合は、単に

```
\author{%
  Given-name Surname
\and
  Given-name Surname
}
```

としてください。 \jname{ } や \ename{ } は指定しません。

- 筆者名（所属が異なる場合）:

```
\author{%
  \jname{第1筆者氏名\first{}}
  \ename{Given-name Surname}
\and
  \jname{第2筆者氏名\second{}}
  \ename{Given-name Surname}
\and
  Given-name Surname\third{ }
}
```

所属が異なる場合、違いを識別するため、

```
\first \second \third ....
```

の指定を加えてください。これは同一の所属は同一のコマンドを与えます。さらに所属の方にも、該当する \first, \second, \third... の指定を加えますが、その順序は自由です。具体的な出力は、\first と指定すると、“\*1” が筆者名の右上（所属は左上）に表示されます。これは単純なコマンドです。全部で9つ用意してあります。以下がその内訳です。

```
\def\first{\hbox{$\m@th^{\ast 1}$\hss}}
\def\second{\hbox{$\m@th^{\ast 2}$\hss}}
\def\third{\hbox{$\m@th^{\ast 3}$\hss}}
\def\fourth{\hbox{$\m@th^{\ast 4}$\hss}}
\def\fifth{\hbox{$\m@th^{\ast 5}$\hss}}
\def\sixth{\hbox{$\m@th^{\ast 6}$\hss}}
\def\seventh{\hbox{$\m@th^{\ast 7}$\hss}}
\def\eighth{\hbox{$\m@th^{\ast 8}$\hss}}
\def\ninth{\hbox{$\m@th^{\ast 9}$\hss}}
```

- 所属： \jname{ } や \ename{ } の指定は筆者名の場合と同じです。次のように指定します。

```
\affiliate{
  \jname{\first{ }所属和文 1}
  \ename{Affiliation #1 in English}
\and
  \jname{\second{ }所属和文 2}
  \ename{Affiliation #2 in English}
\and
  \third{ }Affiliation #3 in English
}
```

なお、欧文論文の場合は、単に

```
\affiliate{
  \first{ }Affiliation #1 in English
\and
  \second{ }Affiliation #2 in English
\and
  \third{ }Affiliation #3 in English
}
```

とします。 \jname{ } や \ename{ } は指定しません。ただし、和欧文とも所属が同一の場合は、\first の指定は不要です。

- 連絡先： 代表者の氏名、所属、所在地、電話番号、Fax 番号、e-mail アドレスなどをお書き下さい。

```
\jaddress{氏名, 所属, 住所, 電話番号, Fax 番号, 電子メールアドレスなど}
```

とすれば、脚注の位置に“連絡先: ”という形で出力されます。なお、欧文論文の場合は、

```
\address{name, affiliation, address,
telephone number, Fax number,
e-mail address}
```

とすれば、脚注の位置に“Contact: ”という形で出力されます。

#### ○ その他

- 脚注： 脚注は、下にある例のように \*1 通常の L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X ([?]) の書き方である \footnote{ } を使って書きます。
- 参考文献： j(-)article.cls(sty) (欧文論文の場合は article.sty(cls)) が用意しているものを使用になります。著者名、文献名、ジャーナル（出版社）、発行年など、イニシャル、略語のスタイル、記載順などは論文誌の規則に従ってください。jBibT<sub>E</sub>X を使う場合は論文誌用の L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X スタイルファイルと同時に配布されている“jsai.bst”を使うことをお勧めします。参照ラベルの \cite{ } も使えます。最後の部分に参考文献のサンプルが添付してあります。
- 他のコマンド 通常の L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X の組版と変わりありません。j(-)article.cls(sty) (欧文論文の場合は article.sty(cls)) で扱えるものはすべて使うことができます。

\*1 この例が脚注です。

---

## 参考文献

- [Knuth 84] Knuth, D. E.: The  $\text{\TeX}$ book, Addison-Wesley (1984), (邦訳 :  $\text{\TeX}$  ブック, 斎藤 信男 監修, 鷲谷 好輝 訳, アスキー出版局 (1992)).
- [Lamport 86] Leslie, L:  $\text{\LaTeX}$ : A Document Preparation System (Updated for  $\text{\LaTeX}2_{\epsilon}$ ), Addison-Wesley, 2nd edition (1998) (邦訳 : 文書処理システム  $\text{\LaTeX}2_{\epsilon}$ , 阿瀬 はる美 訳, ピアソン・エデュケーション, (1999)).